

令和元年度 研究成果発表会プログラム

開会			10:00
1	カンキツ類の栽培のための品種適応性評価 ～東京都における導入期の寒害の発生を明らかにしました～	園芸技術科 荒井 那由他	10:05 ～ 10:20
2	3月咲きチューリップの安定生産 ～春を彩る直売向きチューリップの栽培をはじめませんか～	江戸川分場 吉岡 孝行	10:20 ～ 10:35
3	ブバルディアの東京オリジナル品種の開発 ～伊豆大島特産花きの再興を目指して～	園芸技術科 宮下 千枝子	10:35 ～ 10:50
4	花き栽培における多層性保温資材利用効果の実証 ～布団資材を内張りで利用すると燃料費が削減できます～	園芸技術科 山本 陽平	10:50 ～ 11:05
5	トウキョウX子豚における卵黄抗体添加飼料の効果 ～元気なトウキョウXをお届けします～	畜産技術科 小山 朗子	11:05 ～ 11:20
6	家畜ふん堆肥の肥料成分の有効活用 ～堆肥中のリン酸とカリの肥料効果を明らかにしました～	生産環境科 赤神 沙織	11:20 ～ 11:35
7	「動かせる緑陰ベンチ」の開発 ～真夏の都市に涼しさを提供します～	緑化森林科 佐藤 澄仁	11:35 ～ 11:50
休憩			11:50 ～ 13:10
特別講演『首都・東京の農産物マーケティング戦略』			13:10 ～ 14:10
休憩			14:10 ～ 14:30
8	東京都におけるシカ被害対策 ～農総研のシカ被害対策研究の成果を紹介します～	緑化森林科 新井 一司	14:30 ～ 14:45
9	江戸東京野菜の生産拡大に向けた栽培技術の開発 ～馬込半白キュウリなど主要5品目をご紹介します～	園芸技術科 遠藤 拓弥	14:45 ～ 15:00
10	外出先からもハウスの環境を遠隔監視制御 ～東京型スマート農業の確立に向けて～	生産環境科 中村 圭亨	15:00 ～ 15:15
11	ワケネギの害虫、アザミウマ対策について ～農薬の使用量を減らす栽培をめざしています～	生産環境科 大林 隆司	15:15 ～ 15:30
12	コマツナの機能性成分ルテインについて ～品種による含量の違いや粉末化に適した条件を明らかにしました～	食品技術センター 石本 太郎	15:30 ～ 15:45
閉会			15:45

特別講演『首都・東京の農産物マーケティング戦略』

国立大学法人 千葉大学 園芸学部 食料経済学科
教授 櫻井清一 氏

東京都にも優れた農業経営体は多数存在しますが、都市化の圧力に阻まれ分散して立地しているため、特定品目の共同販売を主とする従来型の農産物流通は難しくなっています。その一方、多様な消費者・実需者が近くに多数存在するという強みに着目し、独自の販路を形成している例もみられます。首都圏でのユニークな取り組みや、海外の事例も紹介しながら、首都・東京ならではの農産物マーケティングについて考えてみます。

<櫻井 清一（さくらい せいいち）氏 プロフィール>

農林水産省中国農業試験場（現：農研機構西日本農業研究センター）研究員を経て、2001年より千葉大学園芸学部勤務。2010年より大学院園芸学研究科教授。主な研究テーマは農産物と食品の流通・マーケティング、農産物直売所の分析、農村経済の多角化、農村のQOL（生活の質）分析など。著書に『農産物産地をめぐる関係性マーケティング分析』（2008、農林統計協会）『直売型農業・農産物流通の国際比較』（編著：2011、農林統計出版）など。

